久慈観光地図

白樺ゆれる
琥珀の大地
海女の国

久慈の市日

久慈市の市日は、三と八の日の月六回である。昔はこれを六斉市と言った。市のたつところは中町の病院通りで両側の歩道である。

久慈の市日の始まりは、定かではないが、約三四〇年前の正保三年（一六四六年）のころと思われる。この年に、昔、久慈通と言われたころ、今の大川目の三日町が三の日に市（町）のたつのを許されて、三日町が成立したと言われる。当時から家屋が密集していて、宿場町の形態をなしていたことは、五年後の慶安四年二月の火災で、十七軒の家屋を焼失していることで推察できる。

八の日にたつ市（町）は、旧久慈町の昔からの市日で、前に二日の町(市)であったものが、承応2年（1653年）に八日の町（市）となり、それ以来今日まで続いている。そして現在でも、八日町（十八日町、二十八日町）の町名が残っている。二日町であったのはいつからであるか、よくわからないが、そのころの市日が許された事情からおして、たぶん、三日町と同じころと思われる。当時、久慈川流域に発達した三日町や八日町と言われた久慈は、九戸地方の発祥の地で、経済、文化をはじめ交通の要路として栄えたところである。

古老の話では、三日町の市日は明治のころまで続き、その後廃止されたと言う。戦後、昭和25年4月から、今の本町で三日市が開かれるようになった。そして、この三日市も日増しに盛んになってきたが、場所の関係で、八日市の開かれている二十八日町にたつようになり、さらに52年10月、この3と8の日の市が、中の橋通りから市道である今の所に移ったのである。

市日のことを「町」とか「町の日」とも言った。今は、年寄りや近在の一部の人を除いては、一般に市日と言っている。

平成元年十月発行
地域コミュニティ誌「コーヒーカップ」
（No・123号）10P～

筆者　元久慈湊小学校長　中澤義雄氏　記事一部掲載

八郎太郎の話し

（語り・村田　永吉）

むがしむがし、大川目の村の荒津前平つうどこさ、八郎太郎っていうばかに元気のいいわらすぁ(子ども)いだじょう。八郎太郎ぁ、毎日毎日野っぱらぁ走り回ったり、山々を駆けめぐって遊んでるわらす(子ども)だったじょう。

ある日、あんまり走り疲れたので喉ぁ乾いて、横になってえばすぐそばに小さな川ぁあったじょう。

澄んだきれいな水だったので、そっと手を合わせて汲んだじょう。水の中に見えなかったのに、手の上さ一匹の腹の赤い雑魚ぁいだじょう。八郎太郎ぁびっくりしてもう一度汲み直したど。んでもまた腹の赤い雑魚ぁ入ってたじょう。何べんやっても同じだったじょう。そうしているうちに段々喉ぁ乾いてくるので思い切って飲んでしまったど。あんまりおいしいんで飲みつづけたら川の中の水ぁ無くなってしまったじょう。

気ぁついて見たら、なんと八尺もある大男になってたじょう。それからつうもの、太郎ぁ水無しでは生きられないほどの水飲みになってしまったじょう。

太郎はまた喉ぁ乾いて来たので、その大きな足で水を探して歩き出したじょう。なにしろ一度に二十間も三十間も歩けるので、ちょっと歩くと水ぁ見つかったど。んでもあまり水ぁ少なかったのでせっせと土を盛って、その小さな川ぁせき止めたじょう。それぁ今のモッコ山つう所だじょう。歩いているうちに、草履ぁ重くなって来てよく見たら草履の裏さ土ぁいっぱいついでだったじょう。太郎は、よいしょっとその土をはらったら小さな丘ぁそごさ出来たど。そごあ今の草履森だじょう。

太郎は自分が一番強いとうぬぼれて力比べの相手っこ探がしに出かけることにしたじょう。そして北さ向って歩いて行ったじょう。腹ぁへって一休みしてお昼を食べたじょう。今ではそこをヒリーバ（昼場）っていうようになったじょう。

青森の方さ行っても、なかなか適当な相手ぁ見つからず歩いていだら、大きな屋敷ぁあったじょう。太郎ぁ入って行って力比べ申し込んだら、そこの主人は「ようし、この熊に知恵比べ、力比べぇして勝ったら相手になってやる。」ったじょう。太郎ぁ腹を立てで熊と争ったじょうあ、なんのただの熊でぁなく神通力を持った熊だったじょう。結局太郎は両方とも負けでしまったど。

主人は、「お前ぁ、おれの相手になるには足りない。この鉄の草鞋をやっからこの草鞋がすり切れる所まで歩きつづけで、切れた所をお前の住む地とせよ。」って一足の鉄の草鞋を渡したじょう。太郎は仕方なく、あっちこっち歩いたじょう。

ある日、秋田の海岸を歩ってだらプッツリと草鞋ぁ切れだじょう。そこで近くの民家に宿をとり、年寄り夫婦がら夕食をもらって食べ終ると、またひどく喉ぁ乾いてきたじょう、太郎ぁ水が欲しくなって、いろりに長い火ばし突っ込んだじょう。するとどんどん水ぁ湧いてきたので、二人を近くの山さにがしたじょう。水ぁどんどん湧きつづけで、今の八郎潟になって、太郎はそごを住む地として主になったじょあ。

〈大川目昔語り集より〉

ふしぎなスギの木【久慈市】

今の久慈市山形町の漆久保に、むかし大きなスギの木があったそうだ。

スギの木は弁天様をまつった本宮神社の境内にはえていた。ある日、久慈から船頭がお参りにきてこのスギの木を見て、船を造りたいのでゆずってくれと言う。「きったらバチがあたる」と反対する人が多かったが、「弁天様はもともと海辺にまつるものだ。せめてスギの木を海に返してやろう」と決めて、スギの木をきることになった。

それで村のきこりたちが数人がかりで斧をふるったが、一日かかって五分の一ほどしかきりこめなかった。次の日もきり始めようとしたところが前の日のきり口がどこにも見当たらない。二日目も同じだった。そこで今度は夜も休まずきりこんで、三日目にようやくたおすことができた。

スギの木は久慈の港に運ばれ、りっぱな船に生まれ変わった。そして、沖に向ってこぎだしたところが、麦生の崎で船はぴたりと止まり、船の半分まで沈んだと思うとみるみるうちに島になってしまった。

それで漁師たちは「やっぱり神様の木だったのだ」と話し、島にお宮を建て、弁天様をまつった。

島は牛の形に似ていたので、牛島と呼ばれるようになったのだそうだ。

資料　岩手県小学校国語教育研究会編著『岩手の伝説』

大野線
陸中大野
おおのキャンパス
阿子木
長代
侍浜線
侍浜駅
侍浜中学校前
侍浜本町
上桑畑
外屋敷
下桑畑
侍浜北線
侍浜小学校前
保土沢
保土沢公民館前
北野
白前
侍浜南線
本波下
麦生
半崎
菱倉
角柄
川代線
陸中川代
津内口
蟹屋敷
生平
烏谷
夏井板橋
夏井中学校前
陸中大崎
夏井駅前
新町循環線
久慈新町
羽黒山前
高校入口
天神堂
川崎町循環線
東門前
県立病院
下新井田
銀行前
市営球場前
大川目
生出町
大成橋
久慈
久慈海岸線
久慈新港前
消防署前
玉の脇
砂子
久慈荒町
長内橋
小久慈焼前
琥珀博物館入口
広美町
取訪下
小袖海岸
根井
岩瀬張
上長内
三崎
根井線
滝ダム
稲村団地
辛橋
上日吉
陸中滝
日吉循環線
北ノ越
久喜浜
陸中野田駅
たもの木
宇部支所前
野田港
新山根温泉
山根線・滝線
赤間立
市民バス路線図